

第56回全日本聾教育研究大会
(愛知大会)
開催要項



全日本聾教育研究会

東海地区聾教育研究会

全日本聾教育研究大会(愛知大会)実行委員会

2022年10月6日(木)~7日(金)

第56回全日本聾教育研究大会(愛知大会) 開催要項

- 1 大会名称 第56回全日本聾教育研究大会(愛知大会)
- 2 大会主題 「聴覚障害教育の専門性の継承とさらなる発展」
—主体的・対話的で深い学びの授業を目指して—

【主題設定の理由】

聴覚障害教育は、先人の培ってきた不易な教育を継承し、その専門性をもって障害の多様化や社会の変化に対応しながら子どもたちに向き合ってきた。そして、新学習指導要領で示された新しい学力観に基づく授業実践は、子どもたちへの主体的・対話的で深い学びの実現には質の高い不易な教育が重要であることを示した。

変化の激しい社会の中、子どもたちが自身で学び、他者と協働しながら生きていくには、自他の間こえやアイデンティティの相互理解と尊重がまず重要になる。そして、基礎的な言語力、学力を土台として、多様な相手に伝えたりイメージを膨らませたりするための幅広い言語力や思考力、自ら新しい知識を求める学びの姿勢、新たな価値をつくるため深く協議できるコミュニケーション力等を身に付けておく必要がある。これらの力を培う教育を質の高い不易な教育と位置付け、日々の指導に根付かせていきたいと考える。また、多岐にわたり拡大する情報量や、日々進化するコミュニケーションに役立つ機器に対し、それらを上手に活用し、想像と創造のできる人間としての力を培っていくことも大切になると考える。

本研究では、聴覚障害教育の専門性の継承とさらなる発展のため、生涯にわたって能動的に学び続ける力を付ける教育を目指し、子どもたち自身でつくり深める学びの形と、その学びの実現に必須である質の高い不易な教育とを両立させた授業を追求したい。また少人数化傾向にある聾学校の状況に対する工夫、進化するICTやメディアの積極的活用等、現代の課題や進化に即した授業づくりや、子どもたちが切れ目なく学びに向かうことのできる教育の実現も追求したい。

子どもたちの豊かな人生は、質の高い聴覚障害教育の積み重ねと、自己や他者と共に学びを深める豊富な経験の先に成し得るのではないかと考え、本主題を設定した。

3 会期

令和4年10月6日(木)・7日(金)

4 主催

全日本聾教育研究会 東海地区聾教育研究会

5 主管校

愛知県立豊橋聾学校

6 協力校

愛知県立名古屋聾学校 愛知県立千種聾学校 愛知県立岡崎聾学校 愛知県立一宮聾学校
岐阜県立岐阜聾学校 三重県立聾学校

7 後援

文部科学省 愛知県教育委員会 名古屋市教育委員会 全国聾学校長会 全国聾学校教頭会
全国特別支援学校長会 東海地区聾学校長会 東海地区聾学校教頭会
愛知県特別支援学校長会 全国ろう学校 PTA 連合会
全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会 一般社団法人愛知県聴覚障害者協会

8 協賛

公益財団法人聴覚障害者教育福祉協会 小川再治研究協賛会
公益財団法人日本教育公務員弘済会 公益財団法人愛知県教育振興会

9 記念講演

講師 岐阜聖徳学園大学 教授 玉置 崇 氏
演題 「令和の日本型学校教育を実現するために」

10 大会内容

(1)大会事前日程

指定授業 【動画:オンデマンド配信】【指導案:大会ホームページより閲覧】

千種聾学校(幼稚部、小学部) 一宮聾学校(小学部、中学部)

名古屋聾学校(高等部本科、高等部専攻科)

	期 間	配信/事前質問送付先
指定授業動画 配信期間 指導案掲載期間	令和4年9月5日(月)から 10月3日(月)まで	第56回全日本聾教育研究大会(愛知大会) ホームページ https://www.zennichiro.jp
事前質問受付	令和4年9月5日(月)から 9月20日(火)まで	第56回全日本聾教育研究大会(愛知大会)事務局 メール zennichiro-aichi@toyohashi-sd.aichi-c.ed.jp

※指定授業動画視聴と質問受付について

動画視聴について

- ① 愛知大会のホームページより、「参加者メニュー」にログインします。
- ② 「参加者メニュー」内の「各種資料」の項目より「動画視聴手順」のリンクをクリックします。
- ③ ダウンロードされた PDF ファイルを開くと、動画が掲載されているインターネットページの URL が掲載されているため、そのページをブラウザで開きます。
- ④ 視聴したい動画を選びクリックすると、パスワードの入力が求められるため、別途送付したパスワードを入力します。

留意事項について

- ① 動画はダウンロードできないようになっているため、その場(ストリーミング)でご覧ください。
- ② 動画の視聴は、必ず在勤公署でお願いします。録画、スクリーンショット等は、個人情報保護の観点から、決して行わないよう強くお願い申し上げます。
- ③ 動画を視聴するためのパスワードは、「参加者メニュー」ログイン時のパスワードとは異なります。所属団体に別途送付したパスワードです。

- ④ 視聴期間は表のとおりです。動画掲載場所と視聴方法については、「参加者メニュー」の中に説明資料を掲載しています。

事前質問受付について

- ① 上記表に記載する期間内に、愛知大会事務局までメールにてお寄せください。
- ② メール の 件名 に「【事前質問】〇〇〇〇(指定授業校名)学校・△△△(分科会名)分科会」とご記入ください。
- ③ メール本文中に、質問者の「所属団体、お名前」をご記入ください。

(2)大会当日日程、会場

月日	時間	日 程		
大会前日 10/5(水)	13:00~ 15:00~	授業研究会打合せ(助言者・司会者・授業者等) 全日本聾教育研究会第2回全理事協議会		
第1日目 10/6(木)		千種聾学校	一宮聾学校	名古屋聾学校
	10:00~	受付★	受付★	受付★
	2時間目 10:20~	公開授業 (幼・小)	公開授業 (幼・小・中・高) 寄宿舎公開	公開授業 (中・高本科・高専攻科) 寄宿舎公開
	11:15~13:15 ★11:45~受付	移動・休憩・昼食(午後の受付★:ウインクあいち9階 908会議室) ※移動は公共交通機関利用 ※昼食は各自		
	13:15~14:45	授業研究分科会(会場:ウインクあいち9~12階 会議室) (幼・小Ⅰ・小Ⅱ・中・高本・高専)		
	15:00~15:30	開会式(会場:ウインクあいち2階 大ホール)		
	15:40~17:00	記念講演(会場:ウインクあいち2階 大ホール) 【後日全日聾研ホームページ掲載】		
	17:15~17:45	研究協議分科会打合せ		
第2日目 10/7(金)	9:00~	受付★(場所:ウインクあいち9階 908会議室)		
	9:30~12:00	研究協議分科会(会場:ウインクあいち9~12階 会議室)		
	12:00~13:00	昼食・休憩		
	13:00~16:00	研究協議分科会(会場:ウインクあいち9~12階 会議室)		
	16:00~	閉会行事(会場:ウインクあいち9~12階 会議室)		

★2日間を通して、受付が3回あります。

(3)大会事後日程

	方法
記念講演	【後日全日聾研ホームページの会員ページに掲載】

(4)その他

※全国聾学校長会(ウインクあいち)

10/6(木) 17:30~ 開会式・全体会 10/7(金) 9:30~ 研究協議・講話・閉会式

※家庭教育を考える部会2022年(ウインクあいち)

10/7(金) 13:30~ 開会式・協議会 10/8(土) 9:30~ 講演・閉会式

II 設定分科会

(1) 授業研究分科会

【公開授業・指定授業】 会場:千種聾学校、一宮聾学校、名古屋聾学校

学校名	公開授業	指定授業【事前オンデマンド配信】
愛知県立千種聾学校	幼、小	幼、小
愛知県立一宮聾学校	幼、小、中、高	小、中
愛知県立名古屋聾学校	中、高本科、高専攻科	高本科、高専攻科

※寄宿舎の施設公開…愛知県立一宮聾学校、愛知県立名古屋聾学校

【指定授業・授業研究分科会の授業内容】

学校名	分科会	学年等	教科「单元名」
1 愛知県立	幼稚部	4 歳	グループ活動 「やさしい」
2 千種聾学校	小学部 I	4 年	算数 「垂直・平行と四角形」
3 愛知県立	小学部 II	4 年	国語 「一つの花」
4 一宮聾学校	中学部	2 年	国語 「盆土産」
5 愛知県立	高等部本科	2 年	国語総合 「届く言葉、届かない言葉」
6 名古屋聾学校	高等部専攻科	1 年	デザイン実習 「木製アクセサリーの制作」

【授業研究分科会テーマ、助言者】 会場:ウインクあいち 9~12 階会議室

	分科会	会場	分科会テーマ	助言者
1	幼稚部	11 階 1101 会議室	豊かな言語活動を目指した教材づくりとその活用について	信州大学 教授 庄司 和史 氏
2	小学部 I	9 階 903 会議室	論理的思考を高める授業づくり	愛知教育大学 教授 岩田 吉生 氏
3	小学部 II	10 階 1003 会議室	考えたことを伝え合い、学びを深める授業	元愛知県立名古屋聾学校 校長 大胡田 昭二 氏
4	中学部	11 階 1104 会議室	考えを多面的に深め合う授業	岐阜大学 助教 鈴木 祥隆 氏
5	高等部 本科	12 階 1204 会議室	思考力を育てる授業づくり	筑波技術大学 教授 長南 浩人 氏
6	高等部 専攻科	9 階 906 会議室	思考力やプレゼンテーション能力の向上を図る授業づくり	帝京平成大学 教授 藤本 裕人 氏

(2)研究協議分科会 会場:ウインクあいち 9~12階会議室

分科会/会場		協議主題(分科会テーマ)	助言者
		主題設定の理由	運営担当校
1	早期教育 I (乳幼児)	乳幼児の豊かな発達を支える保護者や関係機関との協働による早期支援の在り方を考える。	愛知淑徳大学 教授 井脇 貴子 氏
	12階 1204 会議室	難聴児の早期発見・支援プランが策定され、難聴児への療育の充実が今まで以上に求められている。保護者や関係機関と協働し、一人一人の間こえや発達等を踏まえた、きめ細かく効果的な支援の在り方について研究する。	岐阜県立 岐阜聾学校
2	早期教育 II (幼稚部)	遊びや生活の中で、他者と関わりながら生涯にわたる学びの姿勢の基となる言語力や生きる力を育む指導・支援について考える。	信州大学 教授 庄司 和史 氏
	9階 903 会議室	身近な大人や友達と関わり合いながら遊んだり生活したりすることを通し、幼児は社会生活の基礎となる力を身に付けていく。体験から得られる幼児自身の気付きや新たな発見、共感を基にし、友達や先生に伝えたい気持ちの芽生えを大切にしたい。その上で、言葉や考える力につなげていくことのできる環境の設定や指導・支援の在り方について研究する。	愛知県立 豊橋聾学校
3	教科教育 I (小学部)	他者と協働しながら、生涯にわたる学びの姿勢の基礎となる学力や言語力と生きる力を育むための授業の在り方について考える。	愛知教育大学 教授 岩田 吉生 氏
	10階 1003 会議室	小学部段階では、基礎的な学力、言語力の定着や育成をベースとした、児童が自分で学びに向かったり他者と学び合ったりする中で自分の考えを広げたり深めたりできる授業の工夫が求められる。児童が自分の考えをもち、他者の話を理解するための学力や言語力の育成を目指す授業の工夫と、教える場面と共に学び合う場面の設定等の教師の役割の工夫が両立した授業の在り方について研究する。	三重県立 聾学校
4	教科教育 II (中学部)	他者と協働しながら、生涯にわたる学びの姿勢を高め、生きる力を支える確かな学力や言語力を育むための授業の在り方について考える。	東北福祉大学 教授 大西 孝志 氏
	11階 1104 会議室	中学部段階では、発展的、抽象的な学習に向かうため、読解力や思考力の育成をベースとした、学びの進め方の選択、他者と協働した学びができる授業の工夫が求められる。生徒がより深い知識を主体的に得るための授業の工夫と、生徒が他者や様々な情報に向き合いながら自分の言葉で考えをまとめ発信できる工夫が両立した授業の在り方について研究する。	愛知県立 岡崎聾学校

5	教科教育Ⅲ (高等部) 9階 906 会議室	他者と協働しながら、生涯にわたる学びの姿勢を高め、社会の変化に対応できる学力や言語力と、自ら学び続ける力を育むための授業の在り方について考える。	筑波技術大学 教授 長南 浩人 氏
		高等部段階では、実社会に適応できる力を身に付けるための学習も加わり、知識や学び方を生徒自身の力で発展させていく授業の工夫が求められる。生徒自身が自ら様々なメディアや他者から情報を収集し、それらを選択・協議の上で適切に活用できるようにするための授業の工夫と、生徒自身の力で目的に応じた学びを進められる工夫について検討し、高等部段階での充実した授業の在り方について研究する。	愛知県立 名古屋聾学校
6	自立活動Ⅰ 発語発音・ 聴覚活用 10階 1006 会議室	言葉で考え、他者と受信や発信のできる力を育むための発語発音指導、聴覚学習、言語力の育成の在り方について考える。	同志社大学 教授 中瀬 浩一 氏
		補聴技術、医療技術の進歩により個のニーズも多様化している。他者との協働や様々な情報の選択のためには、言語の受容と表出に関わる力の育成が必要となる。学習基盤となる確かな言語力と、多様な他者と受発信のできる幅の広い言語力を育成するための指導・支援の在り方について研究する。	愛知県立 千種聾学校
7	自立活動Ⅱ 障害認識・ コミュニケー ション 10階 1005 会議室	自他ともに尊重できる障害認識の支援と、広く他者と関わり、深く分かり合うためのコミュニケーション力の育成の在り方について考える。	岐阜大学 助教 鈴木 祥隆 氏
		将来の豊かな社会生活のためには、自己のアイデンティティの確立を基とした自己理解と他者のアイデンティティを尊重する他者理解が必要となる。また自らが主体的に生きていくためには、場面や機会に応じて自ら学びを求めようとする力も必要である。自己理解を基盤として、様々な他者と協議、協働するための適応力、対応力のあるコミュニケーション力を育成するための指導・支援の在り方について研究する。	岐阜県立 岐阜聾学校
8	重複障害教育 11階 1107 会議室	社会で他者と主体的に関わり合いながら、自分らしく生きる力を育むための授業の在り方について考える。	愛知教育大学 教授 大塚 とよみ氏
		知的障害等を併せ有する子どもたちにとって、他者と上手に関わり合いながら生きていく力は必要かつ大変重要な力である。そのために、個々の言語力、コミュニケーション力、特性、社会性などを踏まえた生涯にわたって活用できる力を育てたい。その力を子どもたち自身が主体的に活用できる指導・支援の在り方について研究する。	愛知県立 豊橋聾学校

9	寄宿舎教育	課題を主体的に見出し、他者との協働により課題解決しながら人々と共に豊かに生活する力を育むための指導・支援の在り方について考える。	元愛知教育大学教授 小田 侯朗 氏
	12 階 1208 会議室	寄宿舎での生活は個々の自立性を高め、他者と共に生活することで社会性も身に付けることができる。将来人として豊かに生活するためには、自身の生活課題や地域社会や身近な社会における課題に気づき、他者と課題を共有して解決に向け協働できる力が必要となる。寄宿舎生活の中で舎生自らが課題を見出し、仲間と協議、協働してよりよく生活できる力を育むことのできる指導・支援の在り方について研究する。	愛知県立 岡崎聾学校
10	キャリア教育	充実した社会的自立や自己実現を目指し、自己理解・障害認識を踏まえた指導・支援について考える。	帝京平成大学教授 藤本 裕人 氏
	11 階 1108 会議室	多様化する社会の中で、自己の役割や存在意識を肯定しながら主体的に生きていくためには、自己有用感を高め自己理解や障害認識を進めることが大切である。社会的自立や自己表現につながるコミュニケーションの力、人間関係を確立する力を育てていくために、発達段階を踏まえた指導・支援の在り方について研究する。	愛知県立 一宮聾学校
11	地域連携・センター的機能	地域との連携の充実を目指した聾学校としての取組や役割について考える。	元筑波大学教授 公益財団法人聴覚障害教育福祉協会 専務理事 松本 末男 氏
	12 階 1207 会議室	人工内耳装用者の増加、補聴機器技術の進歩、地域での学びの広がりにより、聴覚障害教育の専門性の普及、浸透が急務となっている。聴覚障害のある全ての子どもたちがより適切な指導・支援を得るためには、聾学校が専門的な教育機関としてこれまで以上に地域との連携を強化し、地域のセンター的な役割を果たす必要がある。地域に暮らす聴覚障害のある子どもたちの専門的な教育の実施に向けて、地域や関係機関と協働した指導・支援の在り方について研究する。	三重県立聾学校

12 開会式次第

(1)開会の辞 愛知大会副実行委員長(愛知県立千種聾学校長) 荒木 紫野舞

(2)挨拶

全日本聾教育研究会 会長(愛知県立岡崎聾学校長) 鹿嶋 浩

愛知大会実行委員長(愛知県立豊橋聾学校長) 衛藤 真有

(3)来賓挨拶

文部科学省 初等中等教育局 特別支援教育課 特別支援教育調査官 堀之内 恵司

愛知県教育委員会 教育長代理 特別支援教育課 担当課長 加藤 哲士

全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会 会長代理 世田谷区立駒沢小学校

指導教諭 吹野 佳朗

公益財団法人聴覚障害者教育福祉協会 会長代理 専務理事 松本 末男

(4)来賓紹介 愛知大会副実行委員長(三重県立聾学校長) 水守 智士

(5)閉会の辞 愛知大会副実行委員長(愛知県立千種聾学校長) 荒木 紫野舞

(6)諸連絡 大会事務局

13 閉会行事

各研究協議分科会会場にて実施

(1)開会の辞

(2)挨拶

全日本聾教育研究会 副会長(筑波大学附属聴覚特別支援学校 副校長) 眞田 進夫

愛知大会実行委員長(愛知県立豊橋聾学校長) 衛藤 真有

全日本聾教育研究会 副会長(次年度開催校主管校 奈良県立ろう学校長) 出口 千恵美

(3)閉会の辞

14 情報保障について

手話通訳、音声認識の文字変換による字幕を準備いたします。

また、本大会の情報保障は、富士通株式会社に御協力をいただいています。開会式、記念講演、授業研究分科会、研究協議分科会等大会全体において、富士通株式会社のサポートによる、LiveTalk を使用した字幕での情報保障を提供します。

15 展示等

展示等を行っています。ぜひ、お立ち寄りください。

展示内容	日時	場所
絵画展示 合奏コンクール映像放映	10月6日(木)、7日(金)	ウインクあいち 11階 1110 会議室
機器展示会	10月7日(金)	ウインクあいち 9階 907 会議室
書籍の販売	10月6日(木)、7日(金)	ウインクあいち 9階 908 会議室 (受付)

16 参加者数(令和4年9月5日現在)

(1) 授業研究分科会

分科会名	参加者数(人) ※助言者・運営担当者数を含む	指定授業校
幼稚部	84	愛知県立千種聾学校
小学部Ⅰ	63	
小学部Ⅱ	39	愛知県立一宮聾学校
中学部	45	
高等部本科	60	愛知県立名古屋聾学校
高等部専攻科	22	
特定しない・その他	49	
参加者合計	362	

(2) 研究協議分科会

分科会名	参加者数(人) ※助言者・運営担当者数を含む	発表数
早期教育Ⅰ(乳幼児)	35	6
早期教育Ⅱ(幼稚部)	56	9
教科教育Ⅰ(小学部)	51	6
教科教育Ⅱ(中学部)	38	5
教科教育Ⅲ(高等部)	30	8
自立活動Ⅰ(発語発音・聴覚活用)	26	4
自立活動Ⅱ(障害認識・コミュニケーション)	20	5
重複障害教育	26	6
寄宿舎教育	35	9
キャリア教育	22	4
地域連携・センター的機能	18	4
特定しない・その他	56	0
参加者合計(人)	413	66

(3)ブロック集計

地区(地区研究会名称)	参加者数(人)
北海道(北海道聴覚障害教育研究会)	7
東北(東北聾教育研究会)	27
関東(関東地区聾教育研究会)	69
北陸(北陸地区聾教育研究会)	23
東海(東海地区聾教育研究会)	128
近畿(近畿聾教育研究会)	44
中国(中国地区ろう教育研究会)	21
四国(四国地区聾教育研究会)	14
九州(九州聴覚障害教育研究会)	32
学生	5
会員外・大学・その他(来賓、講演、助言者)	39
参加者合計(人)	411

17 大会要項、研究集録について

- ・大会要項、研究集録は紙媒体で配付しません。愛知大会ホームページ上に掲載します。各自でダウンロード、印刷をしてご持参ください。9月中旬から下旬に掲載します。
- ・公開授業の学習指導案は、大会当日授業公開校で配付します。指定授業の指導案は、当日配付はありませんので、ご持参ください。
- ・大会当日は、プリンターの準備はしません。当日資料を配付する発表者は、事前に必要な部数(分科会参加者+20)を印刷してご持参ください。発表者より事前に提出していただいたプレゼンデータは、当日の投影用のみに使用します。
- ・大会要項、研究集録の入ったUSBを購入された方は、ウインクあいちの受付(9階908会議室)で配付します。

18 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止について

本大会は、参集して行います。感染症対策について、以下のように御協力をお願いいたします。

- (1) 会場には、飛沫防止透明ボード等を準備する予定ですが、発表をする参加者は、透明マスクなどの御準備をお願いいたします。
- (2) 分科会会場では消毒の実施等の感染予防対策を講じます。
- (3) 大会前に、地域の感染症対策の変更があった場合などは、それぞれの自治体等の指示に即し移動の可否を判断してください。愛知県に緊急事態宣言等が出され、移動制限が出された場合は、完全web大会に変更します。
- (4) 基本的な感染症防止対策(体調確認、マスク着用、手指消毒等)の御協力をお願いいたします。
- (5) 大会前1週間の健康観察をお願いします。愛知大会ホームページ上に今後掲載する健康状態申告書に健康状態を記入し、1日目、2日目の両日、受付にて提出をお願いします。大会終了後事務局で1週間保管し、その後破棄します。大会終了後の健康観察もお願いします。大会終了後、3日間の内に感染確認された場合、愛知大会事務局にご連絡をお願いいたします。その後、関係する皆様にお知らせします。

19 自然災害時、感染症拡大時等における対応について

- (1) 気象警報が発表された場合、原則として大会は実施します。
- (2) 気象警報の発表、感染症拡大等により公開授業校が臨時休業、部閉鎖、学年閉鎖等になった場合、公開授業は中止となります。
- (3) 公開授業が中止となった場合、最初の受付が1日目昼のウインクあいちとなります。
- (4) 気象、感染症拡大による、開催に関する情報は、愛知大会のホームページにてお知らせします。

20 その他

「参加者の皆様へのお知らせ」を今後愛知大会ホームページ上に掲載します。名札、スリッパなどの持ち物や、受付についてなど記載しています。本大会通信第3号と合わせて御確認ください。

21 大会事務局及び連絡先

第56回全日本聾教育研究大会(愛知大会)事務局

〒441-8141 愛知県豊橋市草間町字平東100番地 (愛知県立豊橋聾学校)

Tel 0532-45-2049 Fax 0532-47-7545

<大会実行委員会>

実行委員長：校長 衛藤 真有 大会事務局長：中野拓希子

全日本聾教育研究大会(愛知大会)事務局メールアドレス

zennichiro-aichi@toyohashi-sd.aichi-c.ed.jp